

編集後記

機関誌である本誌の役割には、メディアセンターの活動を内外に伝えること以外に、メディアセンター自身が過去の活動内容を後々参照できるよう記録に残すということがあります。前者の役割のためには、ローカルな用語をできるだけ一般的な言葉に置き換えるなどの配慮が必要です。一方で後者の役割を考えると、過度に一般化、抽象化し過ぎずに事実を報告しておくことも必要で、読みやすさと正確さのバランスを考慮しながら言葉を選択していくことになります。今号の特集は新図書館システムの導入報告ですが、システム関連の固有名など、わかりにくいと受け取られる箇所があるかも知れません。寛大にお読みいただければ幸いです。

さて特集では、ディテールの部分ではまだ悪戦苦闘が続いているものの新システム導入は大枠としては成功した、という趣旨で報告されています。メディアセンター全スタッフがそれぞれの立場でシステム移行に臨み、まさに総力を結集した結果でした。日本では馴染みがない海外パッケージシステムの導入事例として、少しでも他の図書館の参考になればと願うとともに、慶應が何年か後に再びシステムリプレースに挑む際に参照する記録として今号が役立つものとなることを期待します。

昨今の大学図書館界は“電子化”一色の感があります。特集以外の記事では、慶應が参加しているグーグル・ライブラリー・プロジェクトというまさに電子化に向けた動きの報告のほか、読書推進・資料配置・施設リニューアルなど“場”を拠り所とする活動も多く盛り込まれています。“紙”を維持しつつ“電子”が膨らむ過渡期にあって、図書館サービスをどう展開していくか、慶應の現況をお伝えできればと思っています。

(関 秀行)

誌名変遷

八角塔 : 1号(昭42(1967).7) - 6号(昭45(1970).3)
KULIC (ISSN 0913-0705) : 1号(昭45(1970).10) - 26号(1992.11)
MediaNet (ISSN 0919-8474) : No. 1(1993.11) -
